

イノシシの被害防止のために



～急速に広がった県内のイノシシ～

県では富山県イノシシ管理計画を策定し、被害防除、生息環境管理、個体数管理を積極的に実施し、個体数の減少及び農作物被害の軽減を図り、イノシシによる農作物被害が極力少ない状態を目指しています。

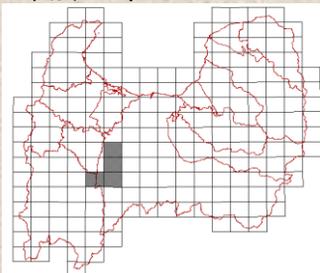
県内の生息状況

県内に広く生息するようになったイノシシ

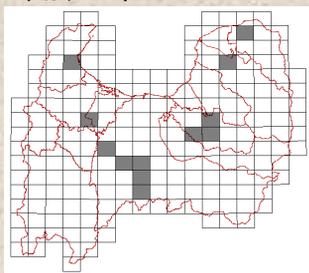
本県では、明治時代の後半までイノシシが生息していたと考えられますが、大正から昭和にかけては、ほとんど生息していなかったと思われます。

平成10年代に入ると隣接県からの侵入により、再び生息するようになり、現在では舟橋村を除く全市町に広がり、令和元年の捕獲数は過去最高の8,172頭と急増した後、豚熱の影響などもあり、令和5年は5,602頭となりました。

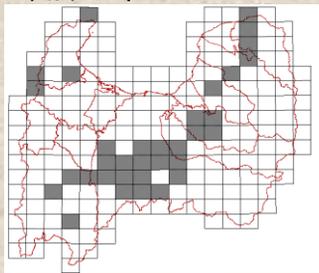
平成14年



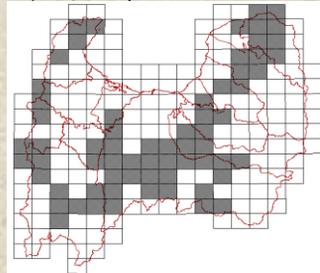
平成16年



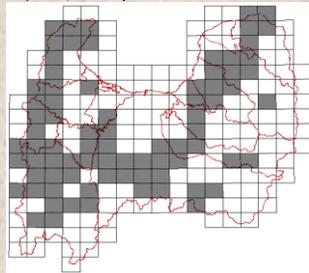
平成18年



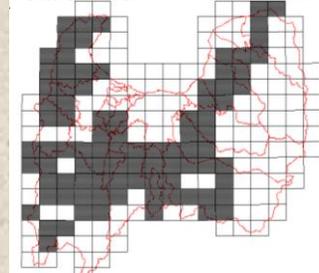
平成20年



平成22年



平成24年



県内では約6000年前（縄文時代前期）の小竹貝塚からイノシシやシカの骨が出土するなど、大昔から人との暮らしと関係のあった動物でした。



イノシシの痕跡

掘り起こしや足跡など

林道脇や畦の掘り起こしや水稻の倒伏などイノシシの痕跡は目立ちます。しっかり痕跡を確認し、効果的な被害対策を行いましょう。



林道の法面の掘り起こし



水稻の倒伏



だんご状の糞



副蹄

主蹄のうしろに副蹄が残る。

生態

意外に狭いイノシシの行動圏

里山から低山帯を中心に生息し、雑食性で各種の葉やクズなどの根茎、堅果・果実のほか、昆虫類やミミズなども食べる。出産は通常1年に1回で、4~5頭の仔を産む。通常、単独で雌雄別々に行動するが、娘は母親と共に母系的な群れを作る。成獣（♀）の行動圏は意外に狭く、農作物被害を及ぼす加害個体は、その周辺で捕獲することが必要である。

体の大きさ

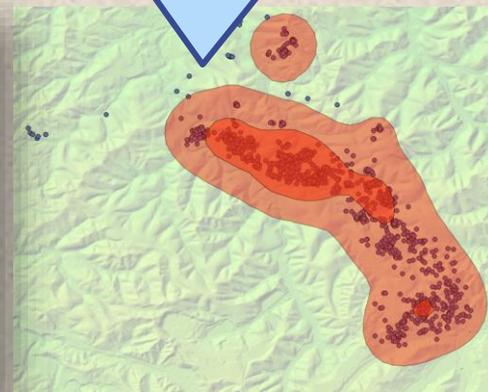
頭胴長：約110~150cm
 体重：約40~100kg
 毛はかたく、足は短い。

意外に狭い行動圏

農耕地周辺に生息する加害個体を捕獲するのが重要。



胃からドングリが！



行動圏（95%薄い色）、コアエリア（50%濃い赤色）

生態

雑食性で、葉や木の実、根、ミミズなどを食べます。とても警戒心は強く、臭覚もすぐれています。高さ1mの柵を跳び越えることもできますし、鼻で大きな石を動かすこともできます。

成獣♀の行動圏の事例

行動圏は最外郭法による行動範囲は4.57km²であった。また、カーネル法による行動圏（95%）は2.75km²となり、コアエリア（50%行動圏）は1.58km²。

被害状況

被害が発生しないように防護柵の設置を！

県内ではイノシシの農作物被害が多く、特に水稻のほか、イモ類、タケノコなどで被害が発生しています。また、柵の設置していない地域への被害の拡大が見られます。畦の掘り起こしも発生しています。



水稻の倒伏被害



サツマイモの食害



畦の掘り起こし

被害防除

基本に忠実にしっかり被害防除をしてください

農作物を守るにはしっかりとイノシシを防除できる柵が必要です。県内では電気柵を中心にワイヤーメッシュ柵や金網柵などが設置されています。



電気柵（できれば3段が理想）



ワイヤーメッシュ柵



金網柵

電気柵の設置のポイント！

- 地面から20cm、40cmの2段、理想はもう1段追加して60cmの3段の電線を設置。
- 側溝や段差などに注意し、イノシシが侵入しないように設置には工夫してください。
- 漏電しないように、草刈りをしっかり行ってください。
- アース棒をしっかりと打ち込み、電圧が5,000v以上を保つようにしましょう。



×有刺鉄線などは効果がありません。
効果の期待できる手法を選択すること。

被害対策

個人での対応と集落ぐるみでの取り組み

集落や農耕地へイノシシが出没しにくい環境作りを行いましょ。農地は適切な侵入防止柵の設置とその維持管理。また、誘引物となるものの適切な処理やヤブの刈り払いなど、個人での対応と集落ぐるみでの取り組みを組み合わせ、その地域で継続可能な手法を選択してください。

(1) 侵入防止柵の設置とその維持管理

- 柵の設置に関しては、限られた場所のみに設置するのか、広域に設置し管理するのかなど、設置前にしっかりプランを立てるようにしてください。
- 柵の設置後は維持管理が必要になります。必ず、柵の見回りをするようにしてください。



維持管理できる被害対策を！

(2) 誘引物の適切な処理

- 未収穫や放任果樹はクマやサルだけでなく、イノシシにとってもいい餌場となります。しっかり、管理するものは実を収穫したり、電気柵の設置により食べさせないようにする。また、不要な木々は伐採するようにしてください。



落ちたクリを採餌するイノシシ



ヤブの刈り払い

(3) ヤブの刈り払いなど

- 安心して農耕地や集落や出沒させないために、ヤブの刈り払いなどを行いましょ。

個体数管理 効率的なわなによる捕獲の推進

県内では、イノシシの捕獲にはこわなが主に用いられ、一部で囲いわなやくくりわなが使用されています。わなの特性をよく理解し、環境や設置場所の状況にあったわなを選択し、効率的なわなでの捕獲を目指しましょう。**各種わなの管理ポイントは下記のとおりです。**

(1) はこわな



両扉が多く見られますが、確実に捕獲するため、片扉のわなも増えています。はこわなの設置・管理に関しては、下記のことにご注意してください。

- 農耕地周辺の林内などに設置。加害個体の捕獲を目指す。
⇒遠くのイノシシより近くのイノシシの捕獲。
- まず、わなの設置予定場所に米ヌカをまく。
⇒イノシシが連続して採餌すればわなの設置を行う。誘引できない時はわなの設置場所を変更する。
- 我慢してわなの中へ誘引する。
⇒わなの中に誘引するように餌付け、わなの外に餌をまきすぎない。
- 同じ地域に複数台のわなが有る場合は管理する人も同じ人がベスト。
⇒同じ人がイノシシの行動にあわせ、誘引餌の配置を行う。
- 蹴り糸は45cm以上にし、親子連れの場合は幼獣のみで捕獲しない。
⇒幼獣のみで捕獲すると、はこわなに入らないイノシシが増える。
- 誘引餌は継続して使用できるもの。
⇒現状では、米ぬかが良く使用される。サルの生息する地域では特に米ぬかのみにすること。なお、クマが誘引される場合は、一時期、餌付けを中止するなどしてください。

(2) 囲いわな



わなの中へ誘引して捕獲する方法は、基本的にはこわなと同じです。囲いわなは複数頭での捕獲が可能です。近年、簡易に移設できる囲いわなやICTゲートなどによる捕獲も行われています。

- 我慢してわなの中へ誘引する。
- ICTゲートなどにより、複数頭の捕獲が可能。
⇒はこわなと基本は同じ。成獣も含めて複数頭での捕獲を目指しましょう。
- 同じ地域のはこわなとの設置場所の選定を考える必要がある。
⇒できれば、周りにはこわなのない地域や新たな捕獲場所などに設置する。必ず、周りのはこわなの管理者と調整してください。
- 誘引餌はその地域に継続して使用できるもの。
⇒現状では米ヌカで十分と思われる。シカがいる地域ではイノシシの捕獲と併用で米ヌカの利用のほか、ヘーキューブなども使用されることがある。また、鉈塩などの使用も必要かと思われます。

(3) くくりわな



クマが生息する地域は、
錯誤捕獲防止のため、
「ペアーク」の使用も
ご検討ください。

はこわなや囲いわなへ誘引できないスレ個体（はこわななどに入らない個体）の捕獲に使用します。もちろん、獣道に設置しての捕獲も可能ですが、錯誤捕獲などが無いように注意してください。

- はこわなへ入らないスレ個体などの通い道に設置し捕獲を目指す。
- 獣道に設置する場合は、自動撮影カメラなどにより、カモシカやクマなどが頻繁に利用していないか確認し、設置するようにしてください。太い獣道を見つけ、設置するのが理想です。
⇒錯誤捕獲の可能性もあるため、必ず放獣できる体制を構築してから、設置するようにしてください。また、止めさしも危険なため富山県が作成している「くくりわなによるイノシシ等の捕獲安全管理マニュアル」を参照してください。

いずれのわなの見回りも小まめに行い、その変化を把握し、迅速に対応できるようにしてください。止めさしだけでなく、イノシシの捕獲には危険が伴いますので、作業するときは十分に注意してください。また、必ず捕獲許可を受けてから、わなの設置を行い、プレートの設置や注意喚起看板の設置も行うようにしてください。